

平成二十七年 度

足立学園中学校 第一回一般入試問題

国 語

(時間 五〇分)

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまでは、この冊子の中を見てはいけません。
2. 問題は「一」「二」「三」からなっています。
3. 試験は「始め」の合図で始め、「止め」の合図で終了しなさい。
4. 試験途中の退席は認めません。
5. 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
6. 試験中に筆記用具の貸し借りはできません。
7. 答えには記号や番号で答えるものと、文字を書き入れるものがある
ので注意しなさい。
8. 答え方に字数制限のあるものは、句読点も字数に含まれるものとし
ます。

一次の——のカタカナは漢字に直し、漢字にはよみがなを付けなさい。

㊦ 入学のジヨウケンを満たしている。

㊧ シュウイの様子をうかがいながら歩く。

㊨ あたたかいウモウの入ったふとんを使っている。

㊩ 試験前に自動販売機でタンサン飲料^{はんばい}を買う。

㊪ 三月には北陸シンカンセンが開通する。

㊫ 新聞の小さな記事に目を留める。

㊬ 我が家のお正月は玄関先に門松をかざる。

㊭ 空から農薬を散布することを禁止する。

㊮ 大会の出場メンバーとして登録される。

㊯ あの子は自分の欠点を努力で補っている。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(都合上、本文は一部変更してあります。)

おれ(竹田哲太)は中学二年生。夏休みに沖縄本島からさらに離れた「神様の島」と呼ばれる南の島での「ミステリーツアー」に参加している。このツアーへの参加者は全国から集まった六人。最初の出会いから意気投合した三人(大野・大平・大淀)は苗字に「大」がつくことから、自分たちのことを「ビッグスリー」と呼んで、ルールを守らず好き放題にやっている。残りの三人(哲太・レオ・光圀)はこの「ビッグスリー」たちから悪口を言われたり、いやがらせをされたり…。それでも哲太たち三人はたのしく過ごしてきた。そんなツアーは三日目の朝を迎えた。

吉村さんの号令で目が覚めた。昨夜は早めに就寝したが、それでも眠い。気合を入れて身体を起こし、顔を洗う。夜の間雨が降っていたようで、空は曇っていた。「日の出は見られないかもしれないけれど、目を覚ますためにとりあえず行ってみよう」

①今日は歩きだった。ビッグスリーたちは眠気が抜けないようで、誰もひとことも話さず、幽霊のようにぼう々と歩いている。

浜に座って東の空を(A)見上げる。灰色の雲に覆われているけれど、定刻が近づくと、徐々に赤みを帯びてきた。あの雲の下には今日の新しい太陽があるんだなあと、思う。雨が(B)降ってきた。戻るか、と吉村さんが言い、みんな(C)施設に戻った。

朝食を食べている最中に、雨が上がった。空が少し明るくなっている。今日もまたレオと光圀と一緒に遊べると思うとうれしかった。なにもない島だけど、飽きることなく遊べる。昨日途中になっちゃったシュノーケリングをしたい。レオもきつとそう思っているはずだ。朝食はまた老人食みたいだったけれど、よく噛み締めれば素材の味がでてきて、おいしかった。

ビッグスリーたちは、なぜだかまるで元気がなかった。食事もほとんど残していた。おれたちの知らないところで、買い食いをしたことを吉村さんに叱られたのかもしれない。

掃除と洗濯をさっさと終わらせて、外に出た。空は曇っていたけれど、ときどき晴れ間が見えて、海も荒れてはいなかった。おれとレオはまた、飛び込みを阿呆み

たいに繰り返して、光圀はおれたちをうきわの上からたのしそうに眺めていた。時間はばかみたいにあつという間に過ぎて、すぐにお昼になった。施設に戻ると、なにやら少し騒がしかった。

大淀の足に包帯が巻いてある。聞けば、転んで脛を切ったらしかった。縫うほどではないにせよ、深かったらしくかなり血も出たそうだ。この島には診療所が一軒だけある。

「痛そう。大丈夫？」

声をかけたのは光圀だ。なんて(D)なんだ、と思いつつ、おれもレオも思わず声をかけてしまう。

「あ、ああ。大丈夫だ」

大淀は青白い顔をして答えた。

午後からは、昨日思う存分できなかったシュノーケリングをした。曇ったり晴れたり、ときおり雨がぼつりと降ったりしたけれど、海は比較的穏やかだった。

三時になり、おれたちはおやつを取りに宿舎に戻った。今日のおやつはカップケーキだった。紙袋に山盛りに入っていた。

海に戻ろうと思ったとき、ちょうど大野と大平が戻ってきた。二人とも様子がおかしい。吉村さんが気付いて、慌てて二人にかけ寄る。シュノーケリングをしていたら、急に大きな波が来て、あつという間に巻かれて岩に身体を打ち付けられたらしかった。身体中傷だらけで、大平は額を打ったらしく血がにじんでいた。

吉村さんは二人を診療所に連れて行った。診療所の先生も驚いていたようだった。たつた三泊のツアーに訪れた六人のうちの三人がケガをするなんて。ケガ自体はたいたことないらしかったが、どういうわけか、そのあとビッグスリーたちはそろって熱を出した。

診療所でもらった薬を飲んで、ビッグスリーたちは、午後はずっと部屋で休むこととなった。

おれたちはカップケーキとさんびん茶を持って、さっきのシュノーケリングの浜に向かった。水色の空に、油絵具をなすったようなブルーグレーの雲が二本平行に浮かんでいる。

「ビッグスリーたちさ」

おれがまだなにも言っていないうちから、レオも光圀も大きくうなずいた。

「うん、そう^④としか考えられへんやろ」

「バチが当たったんだな」

「ぼく^{*}の謝りが足りなかったのかもしれない」

「それは、ちやうやろ」

「そうだよ、光圈。なに言ってるんだよ」

おれはこの島に、ちよつとした怖^{こわ}さを感じていた。生き物や石を粗末^{そまつ}に扱^{あつか}ったり、禁止されていた浜辺の海に乱暴に入ったり。そういうことを、この島は許さなかったのではないか。

「生きてるみたいやもんな……」

「なにが」

思わずレオに聞き返すと、「この島や」と返ってきた。

「なんや、中年のおばちゃんの、湿^{しめ}った腹の上におるみたいや」

「お、お前、すごい表現するなあ」

レオのたとえのリアルさに驚きつつも、言わんとしていることはなんとなくわかった。島そのものが生きて、意思を持っているような気がするのだ。

「光圈のかあちゃんの言うとおりでな。神聖な島なんだな」

おれは海に入る前に、「これから入らせていただきますよ」と、なんとなく心のかで唱えた。レオもぶつぶつとひとり言を言っているようだった。光圈に関しては、きちんと手を合わせて目を閉じていた。

「信心深いな、おれたちは」

照れをまじえて言うと、

「いいことだよ。何事にも感謝しなくちゃ」

と光圈に言われ、ははあ、とひれ伏^ふしたくなった。

海のなかは昨日よりは少し濁^{にご}っていたけれど、魚や生き物は充分^{じゅうぶん}に見えた。いくらでも遊んでいられた。飽きることはまったくなかった。

「明日もう帰るんやな」

カップケーキを食べながら、三人で海を見つめる。

「今回のサマーツアー、かあちゃんが勝手に申し込んでさ。おれ直前まで知らなくて、まじで来たくなかったんだけど、今は来てよかったなあって思える」

「おれも来てよかったわ」

「うん。ぼくも。哲太ちゃんとレオくんに出会えてよかったよ」

大阪と名古屋と横浜の三人が沖繩の島で出会ったってわけだ。

「ぼくは、哲太ちゃんとレオくんの幸せを願うよ」

「は？」

いきなりの光圈の言葉。

「昨日^{*}、哲太ちゃんとレオくん、ぼくのこれからの幸せを願うって言ってくれたじゃない。ぼくも二人の幸せを願うよ」

「あはは。ありがとう。お前ほんまにええやつちなあ」

それからおれたちは、地元の学校や友達や家族のことを話した。たのしい話題だけだ。自然とそうなった。好きな奴^{やつ}には、たのしい話だけをしていたい。だからおれたちはゲラゲラと腹を抱^{かか}えて笑って、お互い^{たが}のことをもつと好きになった。

海に入って遊んで、浜でカップケーキを食べて、また笑った。時間は瞬^{またた}く間に過ぎていった。

施設に戻ると、ビッグスリーたちはまだ寝^ねていた。熱は下がってきたみたいだから安心した、と吉村さんが言った。

「夕食は高価なイラブー汁^じだよ」

おれはてつきり豚^{ぶた}のことだと思った。アグー豚^{ぶた}がよく聞くからその仲間だと思っていた。イラブー豚^{ぶた}みたいなの。ところがそれはまるで違うシロモノだった。

「なにこれ？」

黒いうろこがみっちり光っている。これってもしかして？

「ウミヘビだよ。滋養^{じよう}にいいからね。これを食べれば半年は風邪^{かぜ}ひかんぞ」

うへえ。三人で同じような声を上げる。

「あかん。おれ、よう食わんわ。見た目が無理や」

レオが目をもむける。いちばん嫌^{いや}がると思っていた光圈がいちばん先に箸^{はし}をつけた。

「大丈夫だよ、レオくん。お魚みたいだよ。骨までやわらかい。全部食べられるよ。

うん、おいしいよ」

光圈の言葉に、おそろおそろイラブーを口に入れてみる。あれ？ 思っていたような感^{かん}触^{しよく}や臭^{くさ}みはまったくなかった。とろりと煮^に込んだ缶詰^{かんづめ}みたいにならわかい。ヘビだと思わなければいいんだ。これは魚のうろこであって、ヘビではない。そう

念じて口に入れるものの、やっぱり形状はどうみてもヘビで、視覚からの印象が強烈^{れつ}なのだった。

「レオくん、これは絶対に食べたほうがいいよ。うんと身体にいいんだから」

⑥「なかなかうまいよ。ブリみたいだ」

イラブルー汁に手をつけようとしないうちに、おれも勧め^{すす}てみた。レオは疑わしげな目でおれたちを見たあと、目をぎゅうつとつぶって汁をぐくりと飲んだ。少ししてから、ぱつと目を開く。

「うまいだろ」

汁はかつお風味でいろんな旨^{うま}みが出ていて本当においしい。レオが小さくうなづく。

「うろこが無理なら、汁だけでも飲みなさい。汁に栄養があるから」

吉村さんが言う。レオは汁だけを飲んで、光圀はレオのイラブルーまで平らげた。

おれは、これは「ブリなんだ。ブリのうろこだ」と自分に催眠術^{さいみんじゆつ}をかけながら食べた。食べ終わったあと、気のせいかもしれないけれど、腹の底が熱くなったような、活力がわいてくるような感じがした。

シャワーから出ると、ビッグスリーたちが起き出していた。夕飯をもどもぞと食べている。三人とも、イラブルーは半分くらい残しているようだったけれど、汁はきれいに飲み干していた。

「吉村さん、キジムナ^{*}って本当にいますか？」

おでこに大きな絆創膏^{ばんそうこう}をつけた大平が言う。大野と大淀がぎくつとしたように大平を見る。

「どうして？」

「なんか夢に出てきたから」

大平がつぶやくと、大野も大淀も「おれも」と怖々^{こわい}と言った。

「赤い髪^{かみ}の小さい奴らがおれのまわりをぐるぐるまわりながら、浜に埋^うめようとするんだ」

大野と大淀も、同じような夢だったらしくうなずいている。

「さては、ガジユマルの木でもいじったか？」

吉村さんが笑う。図星らしく、三人は下を向いてもどもぞしている。

「この島の木も植物も生き物も石も砂も、みんな神様のものなんだ。わたしたちは

ただ貸してもらっているだけ。だから敬意を払^{はら}わなくちゃいけないんだ。最初に言つたろ？」

* しかつめらしく三人はうなづく。

「神様はいつでも見てるんだ。誰も見てなくても神様はちゃんと見ている」

神様つてのはなんだろうな、とふと思う。形は見えなくてもいるってことか。昼の月や夜の太陽みたいなものだろうかと考える。そういえば昔よく、おばあちゃんに「お天道様^{てんと}が見てるよ」と言われたつけ。

最後の夜、みんなで花火をした。ビッグスリーたちはケガをしたり熱を出したりしたせい^⑥か、これまでの自分たちの行動をなんとなく反省した様子で、おとなしかった。

「ちよつと、はしやぎすぎただけだったんだよな」

と、肩^{かた}でも叩^{たた}いてやりたかったが、むろんそんなことはできるはずもなく、おれたちは少しだけビッグスリーに同情して、少しだけ気の毒に思っ^⑥て、少しだけ好きになった。

（角川文庫編集部編『ひとなつ。真夏に読みたい五つの物語』所収

椰月美智子『三泊四日のサマーツアー』より）

語注 * 吉村さん……このツアーの主催者・責任者。

* シュノーケリング……シュノーケルという道具を身につけて、水面または比較的浅い水中を遊泳すること。

* さんびん茶……沖縄で、ジャスミン茶のこと。お茶の一種。

* なすった……すりつけた。

* 「ぼくの謝りが足りなかったのかもしれない」

……光圀は前日、ビッグスリーたちが悪いことをしてごめんなさい、と浜で手を合わせて代わりに謝っていた。

* 「昨日、哲太くんとレオくん、ぼくのこれからの幸せを願うって……誰に対してもやさしく、怒^{おこ}ることのない光圀に対して、尊敬の気持ちと悪ふざけの気持ちを合わせて言った言葉。

* 滋養……身体^⑥の栄養となること。

* キジムナ……沖縄県の妖怪・精霊。赤い髪の子供の姿をしており、ガ

ジュマルの木に住むとされる。

*しかつめらしく……表情が緊張きんちようしている様子。

問1 (A) (C)に入る最も適切な言葉を次からそれぞれ選び、記号

で答えなさい。ただし、同じ言葉は二度使いません。

ア さらさらと イ ぞろぞろと ウ ぼんやりと

エ がつがつと オ あっさりと

問2 ①「今日は歩きだった。」とありますが、ここから考えられるものと

して最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 昨日も歩きだった。 イ 昨日は自転車だった。

ウ 昨日は雨だった。 エ 明日も歩きだろう。

オ 明日は自転車だ。

問3 ②「聞けば、転んで脛を切ったらしかった。縫うほどではないにせ

よ、深かったらしくかなり血も出たそうだ。」とありますが、これはおれ(哲太)

が「誰か」から伝え聞いたことを表しています。その「誰か」として適当でな

いものを次からすべて選び、記号で答えなさい。

ア 大野 イ 大平 ウ 大淀

エ レオ オ 光圀 カ 吉村さん

問4 (D)に入る最も適切な言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア やさしい奴 イ お人好し ウ 二枚舌

エ まじめな奴 オ 世話好き

問5 ③「診療所の先生も驚いていたようだった」とありますが、それは

なぜですか。その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 二人が身体中傷だらけになって様子がおかしくなってしまうたから。

イ 吉村さんが診療所にケガをした二人を連れて来たから。

ウ たった三泊のツアーに訪れた六人のうちの三人がケガをしたから。

エ 三人がケガをしたが、幸いいずれもたいしたことがなかったから。

オ ケガをした三人がどういいうわけかそのあとそろって熱を出したから。

問6 ④「そう」とありますが、これは何を指していますか。本文中から

七字で抜き出して答えなさい。

問7 ⑤「大阪と名古屋と横浜の三人が沖縄の島で出会った」とありますが

が、この本文からは一人だけ、どの都市から来たかがわかります。「誰がどこか

ら来た。」という形で答えなさい。

問8 ⑥『なかなかうまいよ。ブリみたいだ』イラブー汁に手をつけよう

としないレオに、おれも勧めてみた。」とありますが、これとは相反するおれ(哲

太)の行動を表している一文を本文中から抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問9 ⑦「これまでの自分たちの行動」とありますが、それを具体的に表

している一文を本文中から抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問10 本文からわかる主人公おれ（哲太）の人物評として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア レオと光圀を気づかいながら行動し、ビッグスリーたちに左右されず、常に的確な判断をする冷静沈着な人物。

イ レオと光圀との永遠の友情を約束しながらも、ビッグスリーたちとも仲良くできるおっとりした平和友好主義的な人物。

ウ ビッグスリーたちを気にしながらも、揺るがない自分たちの世界観を持つ保守的でリーダーシップを発揮する人物。

エ ビッグスリーたちとの和解を求めるが、他の二人の考えに流され実行に移せない少し気の弱い人物。

オ 自分たち三人の仲を大切にしているが、心の片隅ではビッグスリーたちの様子も気になってしまうやさしさを持つ人物。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

（都合上、本文は一部変更してあります。）

わたしは、日本国憲法について、「いのちの泉のようなもの」という感じを持っています。その泉は、深い山の中で静かに清水を湧き出しているもののようで、出てくる水はともきれいで澄んでいます。泉のそばには立て札などはありませんが、その泉はだれが見ても汚してはいけない大切なものだともわかります。

（A）、その水はいのちだからです。次々と生まれてくるいのち。それを静かに守る泉。わたしは人間のいのちと日本の憲法の関係をそんなふうにとらえています。【Ⅰ】

人間は子どもからおとなになるにつれて、だんだん頭が固くなり、ものの見方が固定的になっていきます。だから、おとなの人にこの話をする、「憲法が泉？ 童話じゃあるまいし」と思うかもしれません。でも、この世でいちばん大切なのはいのちで、それをだいに守るものが憲法だとすると、このたとえばはわかりやすいですか？ 【Ⅱ】

人間にとって最も大切なものは、お金や財産、地位や名誉ではありません。きみたちがこの世に生まれたときに与えられたいのちです。いのち^②は自動的にあるものではなく、「与えられた」ものです。【Ⅲ】

そのことを勉強していくと、このような大切ないのちは、どんなふうにも守らなくてはならないか、どのように育てていかななくてはならないかがわかってきます。同時に、いのちには値段がつけられないのだということもわかりましょう。すると、世の中にはお金よりだいじなものがあるということが、自然にこころにしみこんできます。【Ⅳ】

ものを買うときには、お金を出します。手に入りにくいものでも、お金をたくさん出せば買うことができるでしょう。（B）、どんなにお金を積み上げても、いのちを買うことはできません。たくさんお金を持っている人も、貧乏な人も、持っているいのちはひとつだけです。【Ⅴ】

反対に、お金がないからいのちがもらえないということもありません。どんなに貧しくても、与えられるいのちに変わりはありません。そのことを知っていれば、持^③

つているお金の量で人を差別することはなくなります。

わたしは「憲法はいのちを守るもの」だといいましたが、わたしと同じ考えのおとなはあまり多くありません。ちがう意見なのかというと、そうでもなくて、ほかの人たちは憲法についてあまり勉強していないのです。学校でちゃんと教わらずに、社会に出てからも勉強していなければ、しつかりした意見を持つことはできないでしょう。

世の中には「憲法を変えたほうがいい」「いや、変えないほうがいい」と大きな声で叫んでいる人たちがいますが、憲法をどうするのがよいのかは、きみたちが憲法についてよく勉強してから、一人ひとりで考えてもらうことにしましょう。憲法を変えるとすればどこを変えるのか、変えないとすればなぜ変えないのか、そういうことをきみたちが考えられるようになってほしいと思います。

いろいろな意見を持った人たちが話し合うというのは、とてもだいじなことです。

(C) わたしは、本を書くときに書斎にひとりで閉じこもっていても書けません。自分の考えをことばにして書くのですから、ひとりでもできそうなものですが、それではしつかりした考えにはなりません。

わたしは自分の考え方が正しいと思っただけでも、そこに反対の意見の人があらわれると、議論になります。議論のなかでは、自分が正しいと思っただけのことをいっしょうけんめいに支えますから、さまざまな角度から自分の意見の正しさを検討することになります。

すると、自分では見えていたつもりのものが、じつは見えていなかったことがわかったり、正しいと思っていたものが、ある環境のもとでは正しくないことがわかったりします。頭ごなしにまちがっていると思えた相手の意見も、話し合っているうちに正しい部分があることがわかったりします。

(D) 意見のある人たちが話し合うというのは、とても大切なことです。わたしも本を書くときには、これから書こうと思っただけのことを人に話し、感想を聞くようにしています。そうすることで、多くの人の(E)に伝わる文章が書けるようになるのです。

(日野原重明『十代のきみたちへ―ぜひ読んでほしい憲法の本』より)

問1 (A) (D)に入る最も適切な言葉を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ言葉は二度使いません。

A だから イ なぜなら ウ しかし
エ また オ たとえば

問2 次の文が本文中から抜けています。「I」「V」のどこに入りましょうか。記号で答えなさい。

与えられたものであるから、きみたちはいのちを大切に成長させていかなければなりません。

問3 ①「このたとえ」とありますが、筆者は「人間のいのちと日本の憲法」を何と何にたとえていますか。本文中からそれぞれ漢字一字で抜き出して答えなさい。

問4 ②「いのち」とありますが、それはどんなものだと筆者は述べていますか。「もの」に続くように、本文中から二つ、五字と九字で抜き出して答えなさい。

問5 ③「持っているお金の量で人を差別することはありません」とありますが、それなぜですか。その理由となる一文を本文中から三十五字以上四十文字以内で抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問6 ——— ④「わたしと同じ考えのおとなはあまり多くありません」について、

(1) 筆者の「憲法」に対する考えが示されているところを本文中から十一字で抜き出し、最初の五字を答えなさい。

(2) 筆者以外のおとなの「憲法」に対する態度はどのようなものですか。次の文の() に本文中から適切なことばをそれぞれ漢字二字で抜き出して答えなさい。

ほかのおとなは「憲法」についてあまり(1)しておらず、しっかりと(2)を持っていない。

問7 ——— ⑤「しっかりと考えた」とありますが、自分が持った意見が「しっかりと考えた」になるためには、どんなことが大切ですか。本文中から四字で抜き出して答えなさい。

問8 ——— ⑥の言葉の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア かつとなって、どなりつけること。
- イ 関係する人をさしおいて、ものごとを進めること。
- ウ わけも聞かないで、いきなり決めつけること。
- エ どうしたらよいかわからず、困ってしまうこと。
- オ それ以上の見こみがなくて、あきらめられること。

問9 (E) に入る言葉を本文中からひらがな三字で抜き出して答えなさい。

問10 この作品の中で筆者が子どもたちに期待していることは何ですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「憲法」についてただちに学び、変えた方がいいのか、変えない方がいいのか答えを出す方がよい。

イ 「憲法」については学校で教わってから、おとなの意見を取り入れて、しっかりと意見を持った方がよい。

ウ 「憲法」については社会に出てから、しっかりと考えて、大きな声で叫ぶことができるおとなになった方がよい。

エ 「憲法」をどうするのがよいかは、「憲法」についてよく勉強してから一人ひとりで考えた方がよい。

オ 「憲法」をどうするのがよいかは、自分が正しいと思ったことを貫き通す方がよい。

受験番号	
座席番号	
氏 名	
得 点	

三						
問 7	問 6	問 5	問 4	問 2	問 1	
	(1)				A	
					問 3	
				人間のいのち	B	
問 8						
			もの			C
	(2)					
問 9	1			.		
	2					
問 10					日本の憲法	D
			もの			

二			
問 8	問 7	問 5	問 1
			A
		問 6	
	が		B
問 9	から来た。		
		C	
		問 2	
問 10			問 3
			問 4

㊦	㊧
める	
㊨	㊩
㊪	㊫
㊬	㊭
㊮	㊯